参考様式第１-30号（規則第８条第26号関係）　　　　　　　　　　　　　　　　　（日本工業規格Ａ列４）

Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ・Ｅ・Ｆ（規則第10条第４項第２号に適合することを証する書面）

複数の職種及び作業に係る技能実習を行わせる理由書

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| ①技能実習の内容 | 主たる職種・作業 | | | コード番号（　４－９－１　　　）  職種名（　そう菜製造業　　　）　作業名（　そう菜加工作業　　） |
|  | 従たる職種・作業 | | コード番号（　４－２－１　　）  職種名（　食鳥処理加工業　　）　作業名（　食鳥処理加工作業　） |
| コード番号（　　　　　　　　　）  職種名（　　　　　　　　　　）　作業名（　　　　　　　　　　　） |
| ②それぞれの職種及び作業に係る技能等が相互に関連している理由 | | | 当社では、同一敷地内の第１工場でそう菜製造業を、第２工場で食鳥処理加工業を行 | |
| っている。 | |
| そう菜製造業と食鳥処理加工業は、いずれも食料品を製造する一工程という点で共通 | |
| しており、そう菜の加工や食鳥の処理に当たっては、衛生管理作業が行われることが必 | |
| 要である。 | |
| 当社は、自社で処理した新鮮な鶏肉を○時間以内にそう菜に加工しており、そう菜製 | |
| 造と食鳥処理加工の技能は、当社では一連の工程と理解して従業員の教育を行っている。 | |
| ③複数の職種及び作業に係る技能実習を行う合理的な理由 | | | 当社の日本人従業員は、業務の状況に応じて第１工場と第２工場のいずれの業務にも | |
| 従事することが予定されており、多能工として活躍をしている。 | |
| そう菜製造業と食鳥処理加工業に共通の衛生管理作業を中心として、食鳥処理や生鮮 | |
| 肉管理の作業や、惣菜の下処理や調理の作業を多能工として身に付けることにより、母 | |
| 国に技能を持ち帰った際に、より活用することができる技能等が修得できる。 | |
| 当社の持つ、新鮮な鶏肉を○時間以内にそう菜に加工し、美味しいそう菜を一連の工 | |
| 程の中で生産する技能を、技能実習生の母国に移転したいと考えている。 | |

（注意）

①欄には、技能実習計画認定申請書（省令様式第１号）第２面技能実習計画５欄の技能実習の内容と同一の記載とすること。

上記の記載内容は、事実と相違ありません。

　　　　　　　　２０××年　　○○月　　○○日　　作成

　　　　　　　　　　　　　　　　　　申請者の氏名又は名称　機構　株式会社

　　　　　　　　　　　　　　　　　作成責任者　役職・氏名　代表取締役　機構　太郎